ダーマトロジー エクセレンス™

Zoetis Dermatology Report

ゾエティス・ジャパンが提供する獣医皮膚科診療のトピックスを先生方にお知らせします。

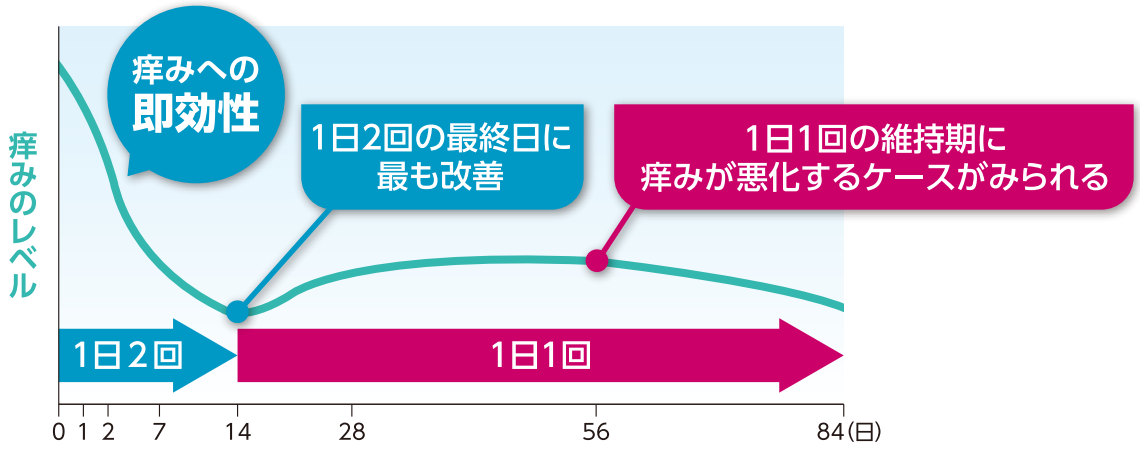
Vol. 2
2016年8月

監修：村山 信雄 先生（犬と猫の皮膚科 院長／アジア獣医皮膚科専門医）

犬アトピー性皮膚炎に対する アポキル®錠使用時の注意点

［1日1回投与に減量する時に知っておきたいこと］

アポキル®錠処方時の痒みレベル（イメージ）

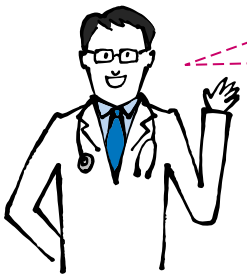


このようなケースへの対応 ～3つのポイント～

対応ポイント その1 ご家族（飼主様）に伝えておく

⇒ 安心感を持っていただく
⇒ 自己判断で増量してしまうことの防止

1日1回に減量するときの説明（例）



痒みも落ち着いたので、今日から1日1回に頻度を減らしましょう。
そうすると、**やや痒みがぶりかえす場合があります。**
しかし長くアポキル®錠を使っていくためには1日1回の方が安心ですから、
○○ちゃんが快適に過ごせる痒みレベルであれば1日1回を続けていきましょう。
我慢できないほど痒みがぶりかえしてしまったら、来院予定日前であってもご来院くださいね。
検査をしたり、別の治療を追加するなどの検討をしますから。
アトピー性皮膚炎は症状が良くなったり悪くなったりを繰り返す病気です。
その時の状態に合わせて○○ちゃんに適切な治療を（一緒に）選択していきましょう。

対応ポイント その2

投与タイミングの指導

アポキル®錠の最高血中濃度到達時間は１時間以内、
血中濃度半減期は約４時間

⇒ 患者様が最も痒がる時間帯の数時間前の投薬を指導する

（例）
- 寝入りばなに痒がる ⇒ 就寝前に投与する
- 日中、散歩から帰ってきて痒がる ⇒ 散歩前に投与する

対応ポイント その3

症状悪化時に検討すべき事項

✓ 鑑別診断の再検討と併発疾患への対応 [1)]
（マラセチア性皮膚炎、膿皮症、ノミアレルギー性皮膚炎、疥癬、食物アレルギー など）

✓ 適切なスキンケアを併用し、皮膚バリア機能を保つ
（シャンプー、保湿剤 など）

✓ 外用ステロイド剤や、抗ヒスタミン剤の併用 [2)]

✓ 外耳炎の治療は、継続して必要となる場合がある

【使用上の注意】
添付文書より

1）本剤は“重要な基本的注意”として「本剤の投与開始前に細菌、真菌（皮膚糸状菌、マラセチア等）又は寄生虫（ノミ、ヒゼンダニ等）感染等について検査し、適切な治療を行うこと。」が定められている。
2）本剤の併用注意として、下記が定められている。（出典：添付文書）

薬剤名・薬効群名	臨床症状・対処方法	作用機序・危険因子
免疫抑制作用を有する薬剤 ステロイド系抗炎症薬、シクロスポリン 等	本剤及びこれらの薬剤の副作用のリスクを増加させる可能性がある。	本剤及びこれらの薬剤はいずれも免疫抑制作用があるため、併用により作用が増強される可能性がある。
薬物代謝酵素やトランスポーターを阻害する薬剤	本剤の作用を増強又は減弱させる可能性がある。	これらの薬剤が本剤の薬物動態に影響を及ぼし、本剤の血中濃度が変化する可能性がある。

ゾエティスの皮膚科製品

抗菌剤

コンベニア®注

シンプリセフ®錠

ゼナキル®錠

駆虫薬

レボリューション®6% レボリューション®12%

抗掻痒薬

アポキル®錠

ゾエティス・ジャパン株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7

C01191